



神戸市都市局
都心再整備本部
都心再整備部 部長
清水 陽さん

人が生き生きと過ごせる 三宮のまちづくりを実現する

建物や広場はハードを整備すれば終わりではなく、そこに人々が集い、楽しい時間を過ごすことで「まちの風景」が完成します。それを実現するために、私たちがかつとも大切にしているのが、三宮を神戸の人が生き生きと過ごしていただける空間にすることです。三宮を楽しむ人の生活スタイルや文化が魅力的であれば、神戸を訪ねたいという人も増えるでしょう。人が主役で、人を中心にした三宮のまちづくりを実現していきます。



国土交通省
近畿地方整備局
兵庫国道事務所 計画課長
島田 裕仁さん

バスターミナルの整備を通して 神戸をさらに魅力的なまちに

バスターミナルの整備効果は、周辺道路交通の円滑化、乗り換え・待合空間の改善、まちの防災拠点として防災機能の向上など多岐にわたります。なかでも一番重要なことは、利用される方にバスターミナルができて三宮がわかりやすくなった、便利になったと実感していただくことです。それを通して神戸の魅力向上に貢献し、市民の皆さんに「神戸は素敵なまち」と誇りを持っていただけるような施設にしていきたいと思います。



西日本旅客鉄道株式会社
大阪工事事務所
三ノ宮駅ビル工事所 係長
丸岡 祐輔さん

三宮のランドマークとして 「えきとまち」をつなぐビルに

JR三ノ宮新駅ビルは、神戸らしさを感じさせる上品で洗練された外観、大規模な吹き抜け空間で駅の顔となる南西側のエントランス、地下1階から4階までを斜めに貫く公共通路など、「えきとまち」のつながりを意識した計画・設計をしています。神戸市出身の私にとって、三宮は多くの思い出が詰まった場所です。そのランドマークとなる新駅ビルの建設に携われ、まちの活性化に貢献できることはとても嬉しく光栄です。

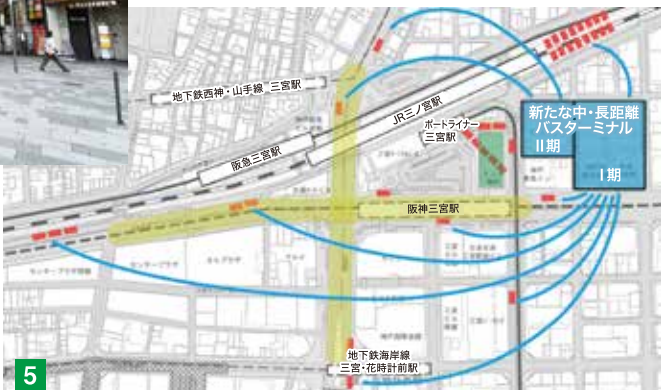
※パースはイメージであり、今後の設計及び関係機関との協議により変更となる場合があります。



3 三宮クロススクエア（第1段階）のイメージ。屋外空間を沿道建物と一体となって整備し、「歩いて楽しい人が主役の居心地の良いまち」を創り出す。



4 先行して再整備された阪急神戸三宮駅北側エリア。サンキタ通りは基本的に歩行者専用の空間となり、サンキタ広場では官民協働でさまざまなイベントが開催され、新たな賑わいを生み出している。



5 西日本最大級の中・長距離バスターミナルを整備。三宮駅周辺に点在する約1,700便を新バスターミナルに集約する。

人が主役の 居心地の良いまちに

三宮はJR・阪急・阪神・ポータル・地下鉄2線の6駅が集まる一大ターミナルで、神戸の賑わいの中心地になっている。その再整備のコンセプトは「言でいうと、歩いて楽しい、人が主役の居心地の良いまち」（神戸市都市局 清水部長）。

三宮駅周辺は、東西に中央幹線、南北に税関線（フラワールード）という大きな幹線道路があり、駅間の乗換動線がわかりにくい、駅とまちが分断されているという課題があった。そこで道路の主役を車から人に転換し、歩行者空間を増やし建築物と一体となつて魅力的な空間を創出していく。これを「えきとまち空間」と名付け、6つの駅があたかも一つの大きな「えき」となるような空間に整備していく。この構想の第一弾として2021年に開業した神戸三宮阪急ビルでは、北側の「サンキタ通り」を歩行者中心の空間に再整備するなど新たな賑わいを生み出している。

交通のハブとして利便性を 向上する

三宮は淡路島や四国をはじめ全国各地に向かう中・長距離バスが約1700便も発着する。現在は駅周辺にバス停が点在しているため乗り換えがわかりにくく、時間もかかっている。その課題を解消するために、国土交通省が中心となつて中・長距離バスターミナルの整備が事業化され、その再開発ビルの工事が進んでいる。また、JR三ノ宮新駅ビルも着工し、これらが開業すれば鉄道とバス、神戸空港へのアクセスなど、交通の要としての三宮の利便性は飛躍的に向上する。

建物の工事と同時に、駅前を車中心から人中心に段階的に転換する「三宮クロススクエア」の構想も進められている。すでに、中央幹線の4車線分はJR新駅ビル、及び歩行者デッキの工事ヤードとして使われており、ビル開業後は「まち」へのエントランス空間として賑わいというおいがある広場空間として整備することになっている。



神戸市役所本庁の展望台から望む、現在の三宮中心部。

LAND MARK



神戸市の「都心・三宮再整備」

阪神・淡路大震災30年特別企画

神戸っ子が待ち望んだ 「三宮」の再整備

阪神・淡路大震災から30年が経過し、神戸市では震災復興に一区切りがついた今、三宮駅周辺の大規模な再開発事業を加速させている。

震災後20年の2015年に「BE KOBE」Ⅱ「神戸の魅力は人、神戸はもつと神戸らしくあれ」というシビックプライド・メッセージを発表し、山手の新神戸駅からウォーターフロントまでを含めた都心の「将来ビジョン」と三宮周辺地区の「再整備基本構想」を策定した。このビジョンと基本構想をもとにさまざまな事業が着々と進み、神戸の玄関口であり、多くの神戸っ子にとって思い入れが深いまち「三宮」は大きく生まれ変わりつつある。

震災を乗り越え、神戸の未来に向けた新しい魅力づくりとはどのようなものか。三宮がどのようにに神戸らしさに溢れた魅力あるまちに生まれ変わるのか。基本となるコンセプトや将来像とともに、主要な再開発事業を紹介する。



1 都心の「将来ビジョン」の対象エリアは外側のおむすび形の範囲、三宮周辺地区の「再整備基本構想」は三宮駅を中心にした半径500mの範囲になっている。

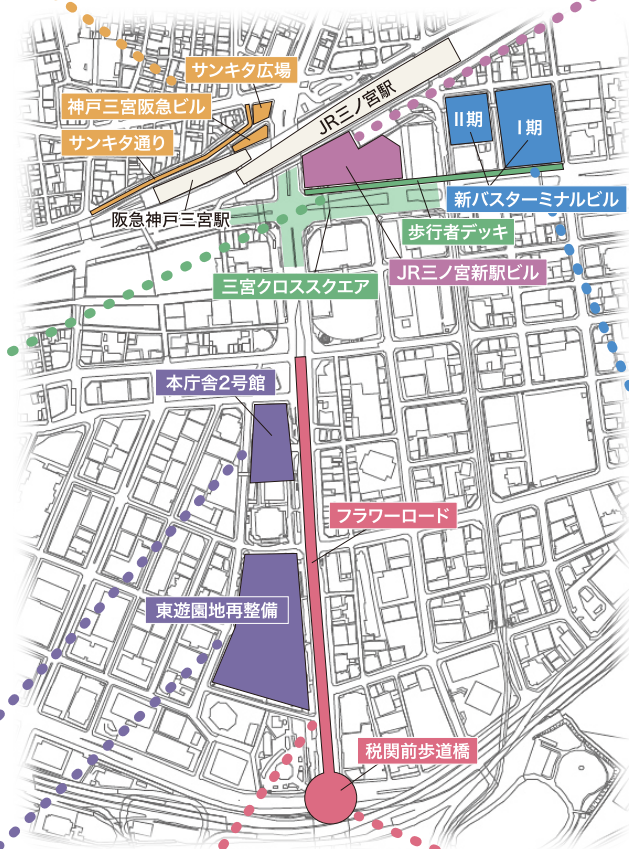
2 2030年頃の三宮周辺地区の再整備の姿を表したジオラマ。市民への説明会などで展示される。



神戸三宮阪急ビル ／サンキタ広場・サンキタ通り（2021年開業）



神戸三宮阪急ビルは地上29階、地下3階、高さ約120mで、三宮再整備の先陣を切って2021年に開業した。商業施設「EKIZO神戸三宮」やオフィス、ホテル「レムプラス神戸三宮」などが入る。ビルの開業に合わせて整備されたサンキタ通りは、17時以降は歩行者天国となる人中心のストリートに、サンキタ広場は音楽ライブなど市民も活用できる空間となって賑わいを創出している。



（税関線） フラワーロードの再整備 （2025年度以降順次整備） 税関前歩道橋のリニューアル

都心三宮とウォーターフロントを結ぶ税関線（フラワーロード）の再整備が2025年度以降、順次進められている。6車線を4車線にして生まれた歩道空間に、滞留空間や自転車の走行空間を整備していく。フラワーロードと国道2号が交わる税関前の交差点に架かる歩道橋は、なめらかな道のラインとケーブルが織りなす構造が印象的な「渡りたくなる歩道橋」にリニューアルする。



（仮称） JR三ノ宮新駅ビル（2029年度開業予定）



地下2階、地上30階で高さ約155mの（仮称）JR三ノ宮新駅ビル（①）。低層部は商業施設、中・高層部はオフィスやホテルに利用することが予定されている。南西側の入口はまちに開かれた吹き抜け空間など、神戸の玄関口を象徴するデザインになっている（②）。他の駅やポートライナー、バスターミナルなどとの乗り換えのために、地下1階から4階までを斜めに貫く公共通路が設けられ、駅前広場上空デッキ（③）などの待合空間も整備される。2025年8月現在、鉄道など周囲の重要構造物に影響を与えないような工法や技術を駆使して地下の掘削などの工事が進められている（④）。



新バスターミナル（I期ビル2027年12月完成予定）



西日本最大級の中・長距離バスターミナルのI期が入る再開発ビルは、地上32階、地下3階、高さ約163mの大規模複合ビルで、国土交通省の直轄道路事業によるバスターミナルのほか、商業機能、宿泊機能、業務機能、屋上庭園とつながる図書館、約1,800席程度の大ホール等で構成されている（①、②）。バスターミナルは1階に乗降場（③）、2、3階には待合や店舗などが入り、乗換・待合環境を改善する。I期の再開発ビルは2027年12月の完成に向けて工事が順調に進んでおり（④）、I期完成頃に西側の隣接地のII期事業着手を目標としている。



三宮クロススクエア（2029年度に東側から先行的に整備） 歩行者デッキ（2027年度以降順次完成予定）

人と公共交通優先の空間に段階的に転換する「三宮クロススクエア」は、JR三ノ宮新駅ビルの開業に合わせ東側から先行的に整備する。中央幹線を10車線から6車線に減少させて歩行者空間を広げ、駅と駅、駅と周辺のまちをつなぐ歩行者デッキが設けられる。



市役所本庁舎2号館再整備（2029年度完成予定） 東遊園地再整備（北側は2023年オープン）

神戸市役所本庁舎2号館は、定期借地で土地を借り上げた民間事業者が事業を行うスキームで再整備が進んでいる。低層部に市庁舎や商業施設、その上にオフィス、ホテルが計画されており、ホテルに関しては国際的ラグジュアリーホテルの誘致が進められている。また、市役所周辺では、中央区役所・中央区文化センターの整備（2022年開設）、東遊園地の再整備が進んでいる。東遊園地の北側は芝生が中心の公園となってファミリー層を中心ににぎわっている。



※パースはイメージであり、今後の設計及び関係機関との協議により変更となる場合があります。

都心・三宮再整備の主要プロジェクト

災害に強く、人が主役の
「美しき港町・神戸の玄関口」を目指して